

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571800277		
法人名	社会福祉法人敬愛会		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	宮崎県西諸県郡野尻町大字三ヶ野山4336-16 (電話) 0984-44-3108		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年6月10日	評価確定日	平成20年7月31日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の幹線道、国道より少し入り込んだ閑静な一角に、特別養護老人ホームとグループホームが併設されている。二つのユニットの落ち着いたリビングのたたずまいはほぼ同じでも、それぞれの住みやすさが演出され和やかな雰囲気醸し出されている。管理者及び職員は「人間愛」「尊厳」の理念の下、利用者と喜怒哀楽を共にし生活している事がうかがえる。

## 【情報提供票より】(平成20年5月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤10人, 非常勤8人, 常勤換算6.7人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000～15,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

### (4) 利用者の概要(平成20年5月20日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	3	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	7	要支援2	1		
年齢	平均 85歳	最低	83歳	最高	103歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野尻中央病院、押川病院
---------	-------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の一つに非常災害に対するマニュアルの整備を求めているが、事業所独自のマニュアルを作成し改善されている。もう一つの改善点は町役場との関わりの強化を要望していたが、改善へ向けての取り組みはできているが途上の段階である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を全職員が理解し、自己評価には全員で取り組み作成している。また、外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の討議の中で職員から防災訓練についての話が上がり、非常災害に対する認識の高さがうかがえる。また、地域住民を交えての訓練を行っており、地域との関係作りの機会にしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情は積極的に受け入れる姿勢があり、また、苦情の発生要因を探り改善へ向けての検討を全職員で行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は町主催の行事にも積極的に参加し、また、事業所の行事等にも小・中学生のボランティアの受け入れやお花の先生も定期的に来訪し、地域の人と利用者、事業所とが一体となった良好な関係作りができている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛」「尊厳」等が重視された理念になっており、また、地域住民との関わり等も盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員も理念の意義を理解し管理者と共有している。また、日々の活動の中でその理念が反映されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等に積極的に参加し、また、地域の小・中学生によるボランティア等の受け入れも行い、地域住民との交流はできている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員が理解し、自己評価には全員で取り組み作成している。また、外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいる。		

宮崎県野尻町 グループホームむつみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議と家族会の相互の意見の交流等を行い、事業所の質の向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場とのかかわりが3か月に1回の運営推進会議だけである。	○	介護保険の更新等で町役場に行く機会を利用し、担当者に事業所の考え方や現場の実情等を積極的に伝えていく取り組みにも期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の状況報告や家族の相談事等について話しをしている。心身の状況に変化があった時には、随時きめ細かく報告ができています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情への対応で終わりではなく、苦情の発生要因を探り、改善に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員のなじみの関係を重視し、離職者を少なくするための、職場環境の整備等に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修会にも積極的に参加し、復命書も提出されている。また、職員が日々の体験を学びにつなげていくための「働きながらの学び」の取り組みもできている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他の同業者と協議する機会や事例検討等を行いサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事前にホームの見学や体験利用等を繰り返しながら、安定するのを見極めて、利用に移行していく取り組みがある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いが協働しながら、和やかな生活が出来るように、場面作りや声掛けを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴等を多方面について聞き取りを行い、その人らしい暮らしや尊厳を支えるために生かす工夫ができています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と共に話し合い、意向やアイデアを取り入れ反映させていく介護計画作りができています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時または定期的にプランの評価や見直しを行い、カンファレンスを開いたうえでプランの変更を行っている。また、介護計画は3か月ごとの見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院等の送迎支援は対応されている。また、短期利用生活介護の指定を受け、近隣の高齢者の受け入れ体制を整えている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を大切にしながら定期受診等を行っている。また、医療機関との医療連携体制もできており、連携を密にする取り組みができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアの看取りについて、医師をはじめとし医療連携体制ができており、職員や家族と共有を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	プライバシーについての鍵となる言葉「一人ひとりに尊厳の気持ちを持ち接する」、この取り組みが徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、個別性のある支援を行っている。		

宮崎県野尻町 グループホームむつみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は食事の準備段階から楽しげな雰囲気である。職員も全員、利用者と共に食事をし、楽しみながらの食事の支援ができています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は個別支援ができていますが、入浴方法において利用者のニーズに答えられていない部分が見受けられる。	○	個別のニーズに応えられるよう、職員のローテーションの見直しや入浴拒否の利用者に対しては、その事の要因を探るなどの検討をし、今後の支援につなげていく事を期待したい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえ、お願いできそうな仕事を頼む等して、役割の支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の外出については、計画的及び随時の支援が来ており、その記録が記載されている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛ける事の異常性を理解しており、日中は玄関に鍵は掛けられていない。		

宮崎県野尻町 グループホームむつみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民の参加と協力を得ながら、総合的な防災訓練を定期的に行っている。事業所独自の非常災害マニュアルも新しく整備され、全員一丸となつての取り組みがある。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の栄養摂取量や水分量を把握し、また、併設する栄養士の指導の下、献立の検討や栄養管理を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよさや心身の活力を引き出すために、生活感や季節感のあるものを、うまく活用しながら暮らしの場を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの物を置いておく等、本人や家族と相談しながらの居室作りが出来ている。		

※  は、重点項目。